

知らないうちに英語力が身につく 4技能を統合的に伸ばすSEGの英語多読

「科学的教育グループ SEG」は1981年の創立以来、「学ぶ楽しさ」を重視した独自の授業を展開し、東京大学をはじめとする難関大学に多くの卒業生を輩出している中高生対象の進学塾です。今回は、「新中1春期講習 英語多読」の授業の様子をレポート形式で紹介します。

自然な速度の英語のシャワーで 生徒の脳内は英語モードへ

SEGの英語多読は、多読パートと外国人パートの2本柱で成り立っています。外国人パートでは、外国人講師との英会話やアクティビティーを通して、英語のリズムや表現、文法を体感しながら身につけていきます。一方の多読パートでは、英語の本を大量に読み、英文に多く触れることで自然に英語をインプットしていきます。

今回紹介するのは、新中学1年生になる3月に行われる春期講習で、全5日あるうちの2日目。クラスレベルはBで、小学生の段階でやや英語経験がある生徒向けの中級クラスとなります。

この日の外国人パートの担当は、Ross先生とアシスタントのTanya先生です。授業はRoss先生の“Okay all right, good evening.”というあいさつで始まりしました。生徒たちは緊張気味でしたが、先生が“I can’t hear you. One more time.”と促すと、全員が大きな声で返答をして、教室の空気が少しずつほぐれてきました。

続いて出欠確認に入ります。名前を呼ばれた生徒は“How are you?”と問い掛けられ、必ず“Why are you fine?”と理由も聞かれます。Tanya先生の絶妙なツッコミのおかげもあり、楽しく会話が進みます。その後も、「雨が好きか」「好きな食べ物は何か」「昨日のテストの出来はどうか」など、会話は次々と広がり、気づけば教室全体が英語のシャワーに包まれていました。

15名の出欠確認に15分ほどかかりましたが、出欠確認が終わるころには、クラスの雰囲気もうすかり打ち解けたものになりました。出欠確認の時間は、日本語モードから英語モードへ頭を切り替える、大切な

ウォーミングアップになっているようです。先生の英語はネイティブのスピードですが、豊かな表情や身ぶりのおかげで、生徒たちはきちんと英語の意味もつかめている様子でした。

講習1日目の内容を復習した後は、先生がストーリーの内容が書かれたプリントを配布し、2人組をつかって交互に音読。音読が終わると、そこで初めてテキストを開き、正誤問題に取り組めます。内容は、たとえば次のようなものです。

- a. Tom study after school every day.
- b. Tom studies after school every day.
- a. I cooked chicken for dinner last night.
- b. I cook chicken for dinner last night.

動詞の現在形と過去形の使い分けを扱った問題ですが、先生たちは詳しい文法説明をせず、「正しいと思うほうに○をつけてください」とだけ指示します。すぐには答え合わせを行わず、「昨日は公園でジョギングをした」「昨夜ホラー映画を見た」などと例文をもとに会話を膨らませ、生徒に多様な英語表現を浴びせてから解答へと進みます。文法学習の入り口に当たる時期だからこそ、多くの現在形と過去形の使い分けを、耳と目で大量の例に触れて、感覚的に理解していくことを大切にしているようです。

テキストが終わると、次はショートムービーを鑑賞します。今回の動画の主人公は猫のHugh。冒頭の雪の積もった庭のシーンを見ながら、Ross先生は「Hughはどこから現れると思いますか」と生徒に予想させます。



先生たちの身ぶり手ぶりを交えた軽快なトークも、SEGの外国人パートの魅力です

このようにストーリーを少し進めては、次にどうなるかを予想して話し合わせ、その結果を見て、感想を言い合い、次の展開を予想していきます。ムービーは会話のないわずか2分程度のものですが、30分以上かけて、登場人物がどんな気持ちなのか、何を考えているのか、物語がどう展開していくのかを英語で表現しました。こうして詳しく見た映像の内容や、耳にした英語表現は、生徒たちの記憶に長くとどまるに違いありません。

英語圏の小学生が読む本を用いて ネイティブの音声とともに読む

続く多読パートの授業を担当したのは、SEG代表の古川昭夫先生です。今回用意されたのは、『Is It?』『Get On』『Floppy Did This』など6冊で、いずれもイギリスの小学校で広く使われているORT (Oxford Reading Tree) シリーズです。大きな文字と親しみやすい絵が特徴で、英語多読の導入に適した教材です。

SEGでは原則として、自分の興味とレベルに合わせて本を選びますが、学び始めの段階では多読に慣れるため、全員で同じ本を読む「一斉読み」を行います。

まずは、登場人物ごとに声優が分かれたドラマ仕立ての音声聞きながら黙読していきます。読み終わると、古川先生は語順によって意味が変わることを説明した後、今度はイントネーションや強弱も意識しながら、音声に合わせて音読します。



多読パートでは、最初はイギリスの小学校でも使われている簡単な絵本から読み始めます

音読後は、本の感想と読んだ語数を「読書記録手帳」に書き込みます。このように読んだ量を可視化しながら、最終的には100万語の読破をめざします。高校卒業までに500万語を読破する生徒も珍しくないというから驚きです。

6冊すべて読み終わったら、英語の発音を学ぶ時間に入ります。まず、有声音と無声音の違いをビデオ教材「Active Phonics」を使って確認し、アルファベット1文字ずつを「音」として認識する練習を行います。古川先生は「日本語ではあまり音を意識することはありませんが、英語はそうではありません」と説明しながら、次のように板書しました。

books[s] 無	He jumps.[s] 無	jumped[t] 無
doors[z] 有	He plays.[z] 有	played[d] 有

さらに、“s”の発音が前の音によって[s]と[z]に分かれることなど、読み方のルールもていねいに解説されました。こうしたことばの根本的なルールを理解することで、英語を正しく読み取る力がぐんと伸びるといいます。

さらに、『The Snowman』の絵本もCD音声に合わせて読み、複数形や三単現の“s”がどのように発音されているかを確認しながら読み進めました。

後半25分は、レベルや関心に応じた洋書を読む「個別読み」の時間になります。生徒はイヤホンでCD

の音声を聞きながら、黙読や音読を行います。学年が上がると個別読みの割合が増え、絵本から一般の英語書籍へと移行していきます。

このように、SEGの英語多読は単に大量に読むだ



音声を聞きながら絵本を黙読する生徒。ことばのイントネーションや強弱も意識します

けではなく、英語特有のリズムや発音ルールを理解したうえで、「英語の読み方」を浸透させていく指導であることがわかります。英語は文字だけでなく音声を伴う言語であるという前提に立ち、4技能を統合的に伸ばしていくSEGの多読は、非常に有効な学習法だといえるでしょう。

科学的教育グループ **SEG**®

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-19-19

資料請求・お問い合わせ

TEL. 03-3366-1466

月～金 14:00～21:00 土 13:00～21:00
www.seg.co.jp/



授業の感想を聞いてみました

新中1生に、英語多読を受講した理由や授業の感想、今後の期待などについて聞いてみました。

H.K.さん(晃華学園)

外国人パートはいつも大盛り上がり

受講したきっかけは、母から勧められてSEGの資料を読んだことです。授業内容がおもしろそうで、「英語多読の授業では、自分の興味のある洋書が読める」というコメントが載っていたのが決め手となり、春期講習を受けることにしました。いつか絶対に英語で読みたいと考えている本があるので、多読パートでたくさんの本を読みながら、自在に洋書を読めるようになりたいと思います。

外国人パートの授業では、先生方のお話がとにかく楽しくてひきつけられます。生徒一人ひとりに話し掛けて、英語で伝える力を引き出してくれるのはもちろん、先生方も話しているうちに盛り上がりどんどんテンションが上がっていくので、とても楽しく授業を受けられます。

R.S.さん(暁星)

海外の人と自由に話せる英語力を身につけたい

家でSEGの資料を見つけて読んでみたところ、おもしろそうな塾だなと思い、春期講習を受講することにしました。多読というユニークな学習法にひかれたことも大きな理由です。ぼくは小1から英語塾に通っており、英語を聞くことには慣れているため、外国人パートの授業も最初からある程度理解することができました。先生方が身ぶり手ぶりで伝えてくれたのも、内容の理解に役立ちました。

多読パートではまだ簡単な絵本ばかりを読んでいるのですが、いろいろな本を読みながら、「どうしても読みたい本」を見つけられるといいなと思っています。

将来は海外の人と自由に英語を話せるようになりたいので、SEGの多読や外国人パートで力を伸ばしつつ、自分から積極的に発言していこうと思っています。

古川先生から『さびあ』読者の皆さんへ

SEGには理系の生徒がたくさんいますが、単調な暗記が嫌いなタイプが多く、英語学習での暗記や問題演習に苦しんでいました。しかし、英語は理系の生徒であろうと、大学入試だけでなく社会に出てからも必須の技能です。そこで、そのような生徒のために、暗記・問題演習中心ではない英語の授業を模索していくなかでたどり着いたのが、多読を軸とする授業でした。

1906年に、東京帝国大学の英語教師でもあった夏目漱石が、著書『現代読書法』のなかで「英語を修むる青年はある程度まで修めたら辞書を引かないで無茶苦茶に英書を沢山読むがよい、少し解らない節があって其処は飛ばして読んでいってもドシドシと読書していくと終いには解るようになる、又前後の関係でも了解せられる、其れでも解らないのは減多に出ない文字である、要するに英語を学ぶ者は日本人がちょうど国語を学ぶような状態に自然的習慣によってやるがよい」と述べていました。多読の重要性は、明治時代から知られていたのです。しかし、当時は中高生が辞書を引かなくても読める洋書が入手困難だったため、多読は広がりませんでした。

SEGでは、英語を学ぶ最初の日から読める易しい



絵本を大量にそろえるだけでなく、高校高学年の生徒でも楽しめるようなYoung Adultの本も豊富に含んだ58万冊の蔵書を準備したうえで、中1から高3までの多読授業を実施しています。

英語多読コースでは、「読む」だけでなく、外国人講師による英会話・文法の授業を組み合わせた「話す・書く」訓練もすることで、高2までに総合的な英語力をつけてもらいます。さらに高3では、受験にフォーカスした問題演習・テスト演習を行います。

難しい本を少し読むだけでは、使える英語力は身につきません。難しいものをたくさん読もう、読ませようとしても、英語が嫌いになってしまいます。易しい本をたくさん読み、読む本のレベルを少しずつ上げていくというのが、最も合理的な英語学習法なのです。

SEG代表 古川 昭夫

2026年に新中学1年生になる皆さんへ

体験授業・春期講習 申込受付日

1/14(水)14:00～

★春期講習(3月開催)より少しだけ早く、SEGの授業が受けられます。

入会説明会にぜひお越しください！【予約制】

1/15(木)～ 土・日・祝日を中心に開催！

体験授業・プレ春期講習日程

新中1 数学Extremeコース体験授業

2/14(土)・21(土)・28(土)
各日9:30～

新中1 英語多読コース プレ春期講習(外国人パートのみ)

2/8(日)・11(水・祝)・23(月・祝)
※初心者用と中級者用を用意しています。



【資料請求】

詳細は、SEGホームページをご確認いただくか、資料をご請求ください。年内に資料請求いただければ、1月10日ごろまでに春期講習パンフレット・手続書類一式をお届けいたします。「新中1希望」と備考欄にご入力ください。なお、すでに資料請求を頂いている方の再度のご請求は不要です。

※巻末モノクロページに、春期講習各講座の詳細とお得なご案内を掲載しています